

# 地域でくらす

## 《地域生活移行利用者調査報告》

企画調整課地域支援係 山本 幸子、杉田 啓史、柳屋 美香

### 1 はじめに

平成 18 年に施行された障害者自立支援法は、障がい者が地域で安心して暮らせる社会の実現をめざすことを基本的な方向としている。

一方、大阪府が平成 19 年 1 月に策定した「府立知的障害者（児）大規模施設の再編について～障害者自立支援法を踏まえた府立施設の再編整備方針（案）」では、①利用者の地域生活への移行を積極的に促進するため、地域に日中活動の場となる拠点施設と生活の場となるグループホーム・ケアホームを提供し、知的障害者更生施設等を順次廃止、②計画的な地域移行の促進、などの方向性を示している。また、平成 19 年 3 月に策定された「第 1 期大阪府障がい福祉計画」は、平成 23 年度までの施設入所者の地域移行目標を平成 17 年度 10 月現在の施設入所者の 20%（約 1,200 人）以上としている。

平成 17 年度から、大阪府障がい者地域移行支援センター（以下、「地域移行センター」と記す）事業が実施され、金剛コロニー利用者が地域生活移行を考えると、住みたい所を府域に広げて選択することができるようになった。その結果、平成 17 年度から平成 20 年度の金剛コロニー利用者の地域生活への移行者数は 186 人で、そのうち 146 人が地域移行センター事業を利用している。

近年、金剛コロニー利用者の地域生活への移行者数は大きく増加しているが、事業団では「施設を出て地域で暮らしたい。」という利用者の願いに応えるため、昭和 50 年代から地域生活に向けた支援に取り組んできた。現在、グループホーム、ケアホームで暮らす利用者は 300 人を超えており、一人ひとりのニーズに応じた支援に努めている。

地域生活移行は、施設から地域生活に移行すれば終わりではなく、地域のなかで、安心して快適な生活を継続できることが大切である。

そのため、施設から出て地域生活をしている利用者が今何を思い、どのように暮らしているのか、一人ひとりのホームを訪問し、124 人から生の声を聴いた。地域で安心して暮らすには、どのような地域のサービスや支援体制が必要なのかなど、調査から日々の支援の反省点や課題を見出し、今後の具体的なアクションにつなげていきたいと考えている。

## 2 地域生活移行者の聴き取り調査について

本調査は、「長野県西駒郷の地域移行評価・検証に関する研究事業」（社会福祉法人長野県社会福祉事業団）を参考に実施した。

なお、地域移行センタースタッフ、支援者、世話人にはアンケート調査を同時に実施したが、本稿では割愛した。

### (1) 調査概要

#### ① 趣旨

利用者の声を聴き地域生活移行の検証を行い、今後の地域移行支援のあり方を検討する基礎資料とする。

② 調査対象者：地域移行センター事業を活用し金剛コロニーから地域移行された利用者。

実施年度	移行期間	対象者数	キャンセル	聴き取り人数
平成 19 年度	平成 17 年度～ 平成 19 年度 (9 月 1 日付)	87 人	4 人	83 人
平成 20 年度	平成 19 年度 (9 月 2 日付) ～ 平成 20 年度 (9 月 30 日付)	42 人	1 人	41 人
計		129 人	5 人	124 人

#### ③ 調査方法

- ・調査者がホームに出向き、利用者から直接話を聴く（アンケート形式ではなく、調査者が下記内容に沿って、生活の様子を聴く）。聴き取り時間は、1人あたり約30分を予定し、利用者が疲れないう配慮する。

#### ④ 依頼方法

- ・事前に、地域移行センターを通じ利用者に聴き取り日時、場所等の希望を確認。聴き取りが可能な場合、実施上の留意事項、記録（写真・録音）の是非等を確認。
- ・利用者へは、個人別に案内を渡す。

#### ⑤ 聴き取り調査者（法人事務局 各年度3人）

- ・利用者への聴き取りはインタビュー方式となるため、調査者を限定することで聴き取り方法の統一を図る。
- ・地域移行後の生活について、利用者の真の声を聴き取るためには、金剛コロニー施設関係者、地域移行支援センター関係者でない第三者のスタッフが入るべきであるが、現状ではその体制を組むことが難しいため、施設関係者の中でも、直接支援に携わっていない法人事務局員とした。

#### ⑥ 聴き取り時の留意事項

- ・事前に調査の意図を説明し了解を得、個人情報や聴き取り内容などの守秘義務を約束する。
- ・答えが限定されることのないよう、幅が広がるような聴き方をする。
- ・聴き取りは、原則、利用者と調査者の一対一で行う。
- ・利用者の了解を前提とし、日程調整も本人の都合に合わせる。
- ・調査者の立場や内容の趣旨をわかりやすく説明する。
- ・わかりやすい言葉遣いをする。

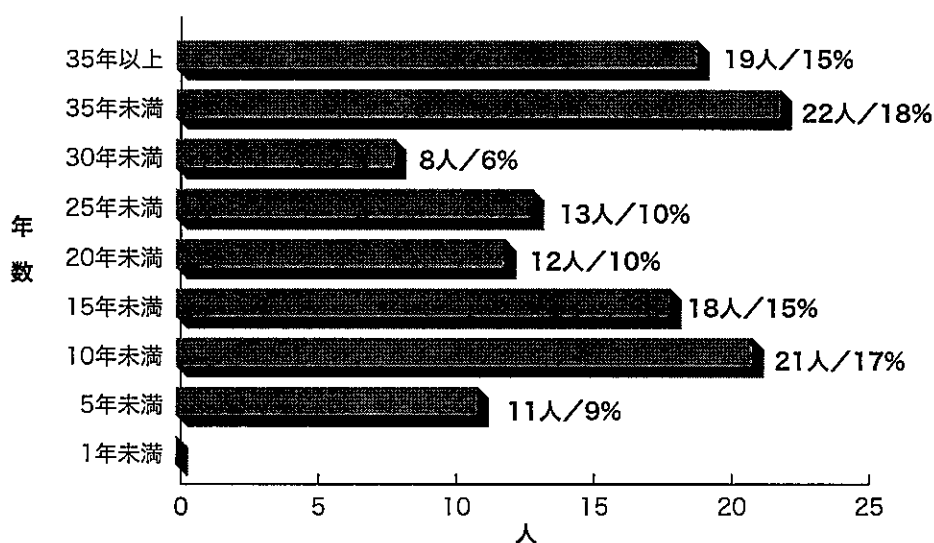
- ・思い込みや答えを想定し、内容をコントロールするような聴き方はしない。
- ・利用者の話に、まずは耳を傾ける。
- ・利用者が話をしてよかったと思うよう努める。

## (2) 聴き取り対象者の概要 (124人)

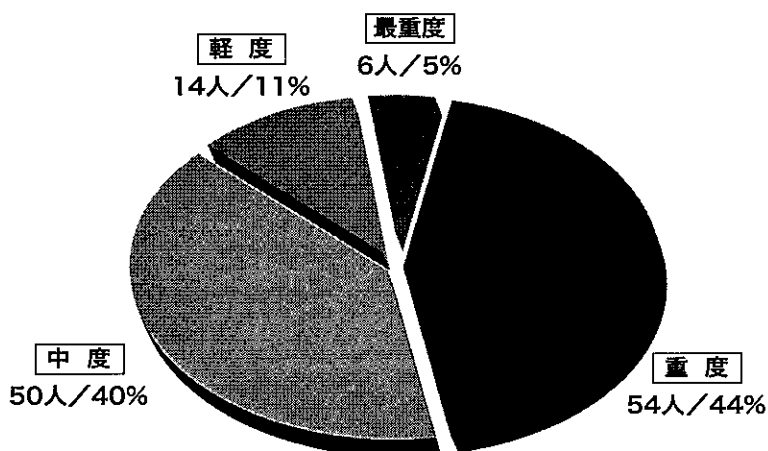
平成17年度～平成20年度のグループホーム・ケアホーム利用者168人中、地域移行センター事業利用者129人を対象とし、当日キャンセルの3人、了解の得られなかった2人の計5人を除く124人に聴き取りを行った。

### ① 入所期間

調査対象者のうち、20年以上コロニーで生活している利用者が半数におよぶ。施設生活を自ら希望した利用者は、ほとんどいない。家族のそばで、また、住み慣れた地域で長く暮らし続けたいにもかかわらず、地域の中に本人や家族を支えるシステムがないため、やむを得ず“施設入所”に至ったと考えられる。



### ② 障がい程度



### (3) 地域生活移行者の想いについて

本調査の実施時期は、平成 19 年度、平成 20 年度共に、冬の寒い時期に実施した。聴き取りに来るからと、わざわざ部屋の掃除をし、部屋を暖め、暖かく迎え入れてもらった。

「部屋見せてあげるわ」と、うれしそうに案内されたその個室には、施設生活の限られた居室スペースではできなかった個性豊かな世界が広がっていた。

「世話人に作ってもらってん」と大好きなキティちゃんのクーラーカバーやカーテンでピンク一色となった部屋や壁一面大好きな芸能人で飾られた部屋。またまた、ペットの金魚も……。中には、驚くほど散らかった部屋もあったが、本人の好きな物に囲まれたそこは本人の城であり、“自分の城にお客さんが来る”ことを喜んでいる様子であった。

聴き取り時は、写真を見せる人、人形が YES、NO を答える人、自分の想いを文章にしてくれる人と、自分の気持ちを様々な形で伝えていた。



聴き取り内容は、1. 地域生活への移行、2. 地域生活の様子、3. これからの生活についての大きく3つのカテゴリに分けて、事前に設問を想定し行った。

しかし、本人が話をしてよかったと感じてもらえるよう、全ての項目をアンケート式に聴き取るのではなく、利用者が話したいことを中心に聴き取りを進めた。

そのため、調査報告にあたっては、同じ言葉同じ表現であっても、その奥にある“想い”は一人ひとり違うことに配慮しつつ、各設問のカテゴリに分けて報告している。

また、参考までに、重複すると思われる内容については、可能な範囲で人数も記載している。

◆地域生活への移行

質問①	<p>「施設を出てホームで暮らすことについて、まず誰とどんな話をしましたか？」</p> <p>ポイント：現在の生活にいたる経緯（入所施設からの移行過程）</p> <p>利用者への情報提供のあり方やその理解度</p> <p>移行に関しての周囲の反応や課題</p>
-----	--

誰から聞いた？

職員から	利用者から	自分で	家族から	その他
48人	4人	6人	1人	2人 (ブランチホーム援助人)

相談したのは誰？

職員	家族	しなかった
38人	24人	5人

家族の反対はなかった（29人）

- ・お金は出せないが自分のお金で暮らすならいいと言った。
- ・ちょっと大変やけどがんばれとってくれた。
- ・強引に自分はホームに入るといってOKもらった。
- ・弟も見学して「こんなところやったらいいよ」とってくれた。
- ・自分はどっちでもよかったが、お兄ちゃんに“そうすれば”といわれた。
- ・自分の好きなようにしていいと言われた。（父親が母親を説得してくれた）

家族の反対があった（5人）

- ・職員が家族と話をしたり、自分でも「行きたい」といった。「コロニーながいもん」。
- ・話し合っただけで賛成してくれた。
- ・職員が話をしてくれた。
- ・発作があるからと心配していた。
- ・お金がかかると言われた。

- ・施設を出て暮らすことを決めるのは本人であるが、調査をとおして、利用者自身が職員や家族の言葉に大きく心を揺さぶられながら、地域生活をはじめていることが分かった。
- ・家族への想いを口にする利用者は多く、本人の意思形成上、家族の支援が重要である。

<b>質問②</b>	<p>「施設を出てホームで生活するためにどんなことをしましたか？ また見たり聞いたりしましたか？」</p> <p>ポイント：地域移行前支援の内容（話し合い、見学、実体験、説明会等）</p>
------------	--

### 体験内容は？

見学	体験入居	自立訓練棟	B H	説明会
63人	5人	41人	61人	36人

\* BH はランチホーム

### 見学

- ・見学して仕事も経験させてもらった。
- ・見学して……「こりゃええな。やっぱり違うわ」と思った。
- ・たくさん見学に行った。見学して楽しかったからホームにきた。

### 体験入居

- ・体験入居をして、うまくいくかどうかわからなかったが行きたいと思った。
- ・1週間泊った。

### 地域生活体験ホーム（自立訓練棟・ランチホーム）

- ・グループホームが何をするとところかわからなかった。それでランチホームにいった。
- ・ランチホームの経験が今役にたっている。
- ・自立訓練棟で電話がかかりにくくて困った。ランチホームで迷子になったことがある。
- ・グループホームはランチホームと一緒にいわれた。ランチホームの世話人に買い物にもつれていってもらって楽しかったから。
- ・ランチホームの世話人に“あなたなら大丈夫”と言われ自信がついた。
- ・ランチホームは楽しかった。ごはんやお風呂がよかった。

### 説明会

- ・話を聞いてもあまりわからなかった。
- ・説明会で、グループホームに入っている人の話を聞いてためになった。
- ・利用者講習会で知らない人についていけないと教えてもらった。何となく役立っている。

### その他

- ・「みてない。ここだけ……」
- ・ずーっとファミリー（コロニー）だけだったから不安やった。
- ・精神的にかなり落ち込んだ。（入居前に地域のコンフリクトのため長期間保留となる）

- ・ホームを数箇所みて決めたという利用者は少なく、“移行した場所のみ”という利用者が多かった。選択肢が限定された中での意向確認となっていることが懸念される。
- ・説明会なども、話を聞いてよかったが、分かりにくかったという利用者も多く、情報提供の機会も、本人に伝わらなければ意味がないことを充分配慮しながら、個別対応に重点をおくと共に、ピアカウンセリング的な取り組みが有効ではないかと思う。
- ・全般的に、経験が少ない利用者は自信がなく不安を口にする人が多く、「いろんな経験して考える方がいい。」と、事前体験が本人の意思形成には、重要かつ有効であることが利用者の声からも指摘できる。

## 質問③

「施設を出てホームの生活がしたかった理由は何ですか？」  
ポイント：地域生活の動機（入所施設から移行するときの思い）

**施設的环境**

- ・喧嘩ばかりでいやだった。(20人)
- ・人が多く、うるさかった。(18人)
- ・ファミリー（生活棟）の人間関係がしんどかった。嫌な人がいた。(6人)
- ・ごはんおいしくない。(5人)  
(冬は冷や飯や。ちょっと食べたら残飯に捨てた。落ちたのを食べてる人もいた。)
- ・私物が盗難にあった。(4人)
- ・コロニーは人と一緒の部屋だから嫌だった。
- ・寮の非常ベルの音がとても怖かった。
- ・坂が多くて歩きにくい。
- ・スーパーが遠い。
- ・ムカデに刺されるから嫌。
- ・いじめられたからいや。
- ・いろいろ文句言われていやだった。
- ・職員と一緒にないとだめなことが多かった。
- ・コロニーの職員は、忙しいからと話を聞いてもらえない。
- ・コロニーの職員は、熱ぐらい大丈夫とお風呂を強制するところがある。ここは、「そうか！」と言ってくれる。
- ・こわい。
- ・利用者の自治会の委員長をしていたがとてもしんどかった。
- ・利用者24人おったけど、職員足らん。
- ・仕事がしんどかった。
- ・コロニーは、なかなか外に連れてつてくれへん。けちくさい。
- ・寮は当番や役割が決められているから嫌。

**将来の希望や体験をとおして……**

- ・家（家族）の近くに行きたかった。(7人)  
\*家に帰りたいが難しいし、親がいなくなったら困るからグループホームにした。
- ・将来一人暮らしをしたいと思った。(6人)  
\*一人暮らしをしたいが発作があり、一人では心配だったから。
- ・一人の部屋がほしかった。(5人)
- ・コロニーが嫌ということではなく、地域生活に興味があった。(3人)
- ・想像して、小さいお風呂に入ってくつろぎたいと思った。
- ・好きなパチンコがしたかった。コロニーで行きたいといったけどだめだった。
- ・お知らせ（ニュース）を見て、そろそろ軒家の場所に移り住みたいと思った。
- ・説明会に職員に進められて参加して、その翌日に親にホームに入りたいと自分で言った。
- ・仕事先が近くになり、余裕がでるから。一番の理由は自由になりたかった。

### 職員との話の中で……

- ・職員に勧められたから。
- ・寮がなくなるので、嫌でも出なければならぬと思った。
- ・寮が潰れると職員に聞いて不安だった。家に帰られへん子は、どこで生活するのか不安だった。
- ・コロニーつぶれるって聞いた。しっかりした人は、早く出て行った方が幸せになれるって職員に言われた。
- ・職員が応援してくれた。
- ・グループホームも選べなくなるから、選べるうちに出た方がいいと職員に勧められたから。別に出たいと思ったわけじゃないけど、今はホームがいい。

### その他

- ・特に理由はない。(6人)
- ・コロニーでもグループホームでもどちらでもよかった。(4人)
- ・他の人が行ったから。(3人)
- ・みんながグループホームに出て行くから取り残されたらどうしようと不安だった。

理由のなかには、今後の施設支援のあり方にフィードバックさせるべき内容がたくさんある。

- ・施設を出て暮らすことを決めるのは本人であるにも関わらず、調査結果からは、疑問に思う対応も多く聞かれた。特に、金剛コロニー再編の流れの中で、本人に不安を与える言動が職員からあったことは、あってはならないことである。今後、施設が大きく変わっていくことに関しては、利用者、家族への説明責任をしっかりと果たし、一つひとつ不安に応じていく責務がある。
- ・自分からは話さない利用者や話すことが苦手な人に、「コロニーに帰りたと思いますか？」と聴くと、「首を横に振る」または、「いや」と一言だけ言われる”など、平成19年度の調査時は、コロニーに帰りたと言う利用者は一人もいなかった。

しかし、平成20年度の調査時は、コロニーへの未練を口にされる利用者もあり、急激な移行への流れの中で、事前の気持ちの整理が十分にできないままに移行されたのではないかが懸念される。

- ・「何となく、ほかの人が行ったから」といった、利用者の主体性に欠けるような話があり、『自分の人生は自分で決める』という自己選択・自己決定の支援のありかたを構築する必要性を感じた。



## 質問④

「あなたが希望していた生活と今のホームの生活は一緒ですか？」

ポイント：地域生活移行後の現在の想い

地域生活へ移行してよかったと思っているか否か。又、その具体的な内容

よかった（思っていたとおり）：62人

### 環境

- ・ホームのごはんがおいしい。(26人)
- \* あったかい。コロニーの給食と全然違う。希望が言える。ビールが飲める。
- ・寮は時間が決められているけど、ホームは寝る時間も自由でいい。(3人)
- ・小遣いがあがってよかった（小遣いが少ないと行動範囲が狭まる）。
- ・便利がいいしスーパーもいっぱいある。
- ・当番がなく落ち着く。
- ・やりたいことがやれてよかった。
- ・携帯電話が持ててうれしかった。
- ・収入が増えた。
- ・仕事に歩いていける。
- ・コロニーでは、危ないからと洗濯もできなかった。ホームは自分でできる。
- ・職員がやさしくておもしろい人ばかり。コロニーは厳しい。
- ・ホームは静か。
- ・コロニーは、仕事してほこりになっても冬は毎日お風呂入れないが、ホームはゆっくりお風呂に入れていい。

### 一人部屋・カギ

- ・一人部屋で自由にでき落ち着く。外出も自由。(10人)
- ・一人で寝れて気をつかわんでいい。
- ・編み物や刺繍など、他の人にじゃまされず楽しめる。
- ・集団生活でないから、とてもいい。
- ・一人でゆっくりコーヒー飲んでテレビが見れる。テレビも取り合いにならない。
- ・鍵をもったことがなく鍵はうれしい、大人に変わってきたなあという気がする。

### 人間関係

- ・グループホームの人間関係は我慢できる。
- ・友達関係も楽しい。ケンカもない。

### 支援体制

- ・世話人がいつもいてくれて安心。何かあっても世話人さんが話を聞いてもらえる。やさしい。(5人)
- ・なんでも世話人に教えてもらえる。自分で料理できることが驚きでとても満足。

特にない：11人

イメージと違った：6人

- ・最初はさみしかった。
- ・ビデオでは家庭的な雰囲気だったが、実際は違った。
- ・ケアホームではなく、夜間支援のないグループホームだと思っていた。
- ・思ったより建物が古かった。
- ・ホームも実際はトラブルが多いなあと思った。
- ・お金が随分かかると思ったが、ほとんどかからなかったのがよかった。

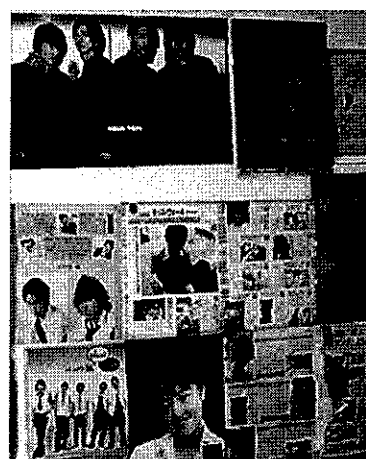
ランチホームと似ている：4人

- ・ランチホームとあまり変わらなかった。

その他

- ・地域の生活はいいが、自分に甘くなり買い物をしすぎて、生活が苦しくなった。
- ・近所や会社の人とかしんどいことは助けてくれる。話してくれる人が増えた。
- ・お金を使いすぎたりして、どうしたらいいかわからない。せつかく話せるようになったのに、センターの職員が変わってしまい(人事異動)不安だった。もうちょっと施設でがんばってもよかったかなあと思う。
- ・コロニーでは職員ともよくケンカしたけど、ホームではしない。
- ・ホームは、別にいいこともないけど嫌なこともない。

- ・抽象的な質問で、理解しづらく、コロニーとの生活の比較という形で、具体的に聴くほうが、現状の想いを引き出しやすいように思う。
- ・“よかった”の内容にある、食事がおいしい、プライバシーが守られた空間がある、人間関係のストレスが少ないなども、質問③の内容同様に、施設での支援のあり方を問う内容が多く含まれている。



自分の大好きなものに囲まれて……

## ◆地域生活の様子

質問⑤	<p>「ホームの生活で困っていることはありますか？」</p> <p>「そのことは、いまも困っていますか？」</p> <p>ポイント：環境の変化、ホームの生活環境や支援者、同居人等との人間関係</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設での生活と違うと思うことや不安に思うこと</li> <li>・支援者（日常におけるフォーマルな支援者の人数、支援体制）</li> <li>・部屋の広さ（プライベートスペースの広さ）</li> <li>・プライバシーを守る手立て（部屋の仕切り、鍵、他者の入室）</li> <li>・所有物（個人の持ち物）</li> </ul>
-----	--

困ったことはない：57人

**支援体制**

- ・夜間世話人がいなくなることは大丈夫。怖くない。(6人)
- ・夜間も世話人がいてくれて安心。(3人)
- ・世話人が掃除や洗濯など手伝ってくれる。(2人)
- ・世話人が話しやすい。

**環境**

- ・部屋に鍵がかけられて、人が部屋に入ってくるのがない。(5人)
- ・喧嘩もなくてのしい。(5人)
- ・単独での生活がとても気に入っている。自分の部屋にいと落ち着く。
- ・お風呂が一人で自由に入れることがうれしい。
- ・友達がたくさんできた。
- ・自分の部屋は自分で掃除する。
- ・テレビやタンスをおくことができる。
- ・いやなことがひとつもない。

困っている（困っていた）。29人

**支援体制**

- ・世話人が帰った後、寂しくて泣いている。不安。(4人)
- ・小遣いが少ない。こづかいが一ヶ月500円は少ない。(3人)
- ・世話人がすぐに見つからないから。
- ・同居の特定の人に事細かに厳しく言われたり、おせっかいをやかれる。世話人のいない土日はひどくなるので、世話人をつけてほしいと言っている。
- ・当初は世話人さんと喧嘩をして自室の壁に穴を開けてしまったりしたが、今はうまくやっている
- ・コンビニが近くにあるけど、世話人さんが忙しくて一緒にいけない。犬がいるからこわくて一人でいけない。
- ・ごはんが薄味でまずい。

**環境**

- ・共同生活の相手とたまにトラブルを起こすことがいやになることがある。(5人)
- ・もう少し広い部屋がいい。(3人)
- ・同居人に、はやく寝るよう言われる。
- ・同居の人が窓や玄関を開けるので戸締まりが心配。世話人が帰った後、泥棒が入ったらつらい。
- ・同室の人が気に入らないことがあると、人にあたりちらしている。
- ・同居の人と年齢が離れていて、話があわない。友達になれそうな人とホームは一緒になりたい。
- ・同居の人やとなりの人がうるさい。
- ・ホームのメンバーと価値観が合わないので困っている。
- ・同居の人がすぐに部屋に入ってくるので、鍵をつけてもらった。
- ・電球が切れたときやトイレトペーパーの紙が少なくなったとき。
- ・移動せず、自分の部屋でごはんが食べれたらいい。そのことを言ったら、「なぜ？」と言われ言葉なくなった。
- ・食事の度に違う部屋に行くこと。隣室との間に鍵をかけてほしい。窓がないので暑い。
- ・乾燥機がなく、冬場が困る。
- ・夏が暑くて、風も通らない。
- ・雨が降ったとき、部屋に干さないといけない。
- ・ホームの建物が古い
- ・お風呂が小さい
- ・救急車がよく通るので気になる(過去に自分が乗った経験があるため)。
- ・女子のセンター職員が最近訪問してくれないのが少々不満。
- ・床下に仔猫がおり、夜や朝方に鳴くのでうるさい。ネズミがおり、柱をかじる音で寝れない時がある。世話人が魚をグリルで焼いたまま出かけることがあり、火事にならないか心配。

**健康面**

- ・体調が悪く困っている。病院にかかっている先のが心配。
- ・歯医者に行くのがいや。
- ・昼間眠たくなる。血圧の薬飲んでるからかな。
- ・トイレが近くて、夜中に14回も行く。

- ・「ここのお部屋安心や」と鍵をかけることができる自分だけの空間があることの安心感は大きく、当たり前空間を得たことで、施設のストレスの大きさに気づく人が多かった。しかし、同居人がいるというストレスはあるようで、無言でとなりの部屋を指さしたり、他の入居者を気遣う言動も多く見られた。
- ・「困ったことはない」と言う57人は、「センターの人や世話人があんじょうしてくれる。」「ちゃんと話を聴いてくれる」など、地域移行センタースタッフと世話人たちの協力により安心感を得ている様子があった。
- ・利用者の声から、ホームの環境についても課題が多くあることも分った。
- ・質問の内容としては、困っていることだけでなく、よかった点に視点をあいた話の引き出し方も必要であった。

## 質問⑥

「仕事や平日の過ごし方について教えてください」

ポイント：日常活動（社会活動）

- ・平日の活動プログラム（一般就労・福祉的就労・日中活動等）
- ・平日の外出（平日の行動範囲・外出先・外出目的・同伴者）

## 日中活動

- ・旅行や買い物等の目的に仕事をがんばっている。
- ・バスを利用して毎日通ってる。
- ・クッキー作ったり売りに行ったりしてる。
- ・パウンドケーキ作っている。作業楽しい。
- ・織物してる。給料ももらってるよ。
- ・タオルたたんだり、折り紙やったりして楽しい。
- ・通所授産施設の工賃が安い。
- ・炭を洗ったりしている。送迎の車がホームの下までくる。
- ・コロニーでやっていたように、窯業で八角花瓶を作ったりしている。
- ・作業所に行っているが、世話人がんばってると言われても、無職と一緒にだからつらい。
- ・仕事は簡単。
- ・仕事は肩こりする。薬のんでるから眠くなる。
- ・しんどくて時々仕事を休む。

## 平日の過ごし方

- ・夜はでかけない。時間がない。危ない。
- ・世話人とゆっくりおしゃべり。世話人とトランプをしている。
- ・コンビニや近所に買い物に行く。
- ・世話人と一緒に夜に買い物に行くことがある。
- ・平日たまにヘルパーと夕食や買い物。
- ・駅や帰り道で寄り道する。
- ・仕事から戻ったら、風呂・ご飯・テレビを観て寝る。外出はしない。
- ・病気のため仕事はせず毎日散歩を楽しむ。



・仕事の話をするとき、利用者は、大変生き生きとした表情をして話している。中には、無言で、仕事で堅くなった手を自慢げにみせてくれる利用者もある。“働く”場や日中活動の場があることで、生活のリズムが保たれ、余暇の充実にもつながっていた。

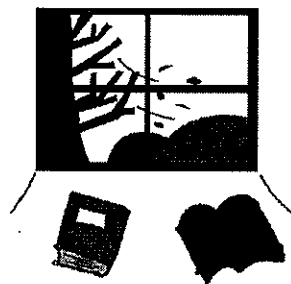
質問⑦	<p>「休日に参加しているサークルや行くことを楽しみにしている場所はありますか？」</p> <p>ポイント：余暇活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サークル活動・生涯学習（活動の種類、主催者）</li> <li>・旅行の経験（旅行の回数、同伴者）</li> <li>・休日の外出（平日の行動範囲・外出先・外出目的・同伴者）</li> <li>・くつろぎ・憩い（特に用事がないときの過ごし方、過ごす相手）</li> <li>・外出時の問題（外出にあたって困ること、外出をためらわせるもの）</li> </ul>
-----	---

### 外出や旅行

- ・外出しての買い物、旅行が好き。ヘルパーと外出。
- ・年に数回旅行に行っている。一人旅行も計画中。
- ・年1回、就労先の慰安旅行に参加。
- ・毎週友達とプールに行く。
- ・映画、ボーリング、パチンコ、デート、くるくる寿司。
- ・乗り放題のチケットを買うこともある。
- ・独りで買い物に行く。
- ・センターみんなといった旅行等が楽しかった。
- ・月に一度温泉に行く（ホームの浴槽を怖がり入れないため）。
- ・ホームのグループ旅行で伊勢に行った。
- ・世話人・ヘルパーと外出（映画館・カラオケ・買い物……）。
- ・年に1回くらいグループ旅行に行く。
- ・ヘルパーと外出し、コーナンでキーホルダーを買うのが好き。ほとんど部屋でテレビを観たり、パズルをしたりしている。年に数回、日帰りか一泊の旅行あり。お姉さんと外出することが多い。
- ・2月はホームのみんなと舞洲行く。3月はカラオケ。
- ・V6のファンクラブに入ってコンサートに行ったりしている。
- ・ボーリングにボランティアと一緒にいる。

### くつろぎ・憩い

- ・テレビをみてゆっくり過ごす。
- ・プレステでゲーム。
- ・一人で好きなまつりのビデオを借りにいく。
- ・休日は昼前まで寝ている。
- ・料理を作っている。ペットの世話。
- ・昼のご飯を買いにいくだけ。
- ・特に出かけることなく部屋で過ごすことが多い。
- ・近所の散歩に行ってる。
- ・近所のスーパーのマッサージ器の体験がお気に入りなど、自分の場所をもっている。
- ・ホームでテレビを見たり、洗濯したり・・・近くのスーパーにしかいかない。



### コロニー関連

- ・コロニーまつりに参加した。

- ・月に一回寮に行っ、お茶や料理のクラブを楽しみにしている。
- ・毎週日曜日には寮に遊びに行き、スーパーに行っている。
- ・休日、朝は寮に遊びに行っていたが、最近職員の対応が気に入らないので、行ってない。

**外出時の問題**

- ・一人ですること不安。
- ・出かける。ヘルパー利用し、動物園に行きたいが行けない。
- ・買い物には行かない。行きたいけど一人では無理だから。
- ・旅行に行きたいがお金がない。
- ・ヘルパーとの買い物は誰が来るかわからないから、世話人さんとの外出がいい。
- ・旅行の企画はあるが、同ホームの友だちにお金がなく行けないので、自分も行かない。

**サークル活動・生涯学習**

- ・法人のサークル活動（釣りクラブ）に参加している。
- ・ヘルパーの紹介で、地域のサークル活動に参加。
- ・ピアノや陶芸を習いにいっている。

**その他**

- ・どこに行きたいかは、センターの職員に言って計画を立てている。

・それぞれの地域、ホームで、自分の気に入った場所や好きなことを見つけ、その人らしい暮らしを始めた人が多い。

・“自分の行きたい場所に行きたい時に行きたいだけ行ける” ことと対比させ、施設での生活の窮屈さを口にされる人が多かった。

・反面、自分の希望を言えず外出できないでいる利用者や、休日の過ごし方が単調で、特に趣味をもたずホームの中だけで生活が完結しているのでは？ と思われる利用者もあり、『豊かな生活』とは何かを、地域のネットワークの中で考えていく必要性を強く感じた。

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
ヘルパー おののけ	ヘルパー おののけ	通院	ヘルパー おののけ	にし		
9	10	11	12	13	14	15
ヘルパー おののけ	ヘルパー おののけ		通院			
16	17	18	19	20	21	22
	ヘルパー おののけ	にし	ヘルパー おののけ			
23	24	25	26	27	28	29
ヘルパー おののけ			通院	ヘルパー おののけ		
30	31					

利用者の希望や障がい特性に配慮された1週間のスケジュール。たくさんの機関や地域の人に支えられ、喜ばせておられました。

<b>質問⑧</b>	<p><b>「ホームのまわりに住む地域の人と話をしたりすることはありますか？」</b></p> <p>ポイント：地域との関係</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人的な交流が盛んに行われているか</li> <li>・ 地域の住民の理解や支援が得られているか否か</li> <li>・ 近所づきあい (近隣住民との関係、近隣の手助け、近隣からの苦情)</li> <li>・ 地域の自治会活動への参加</li> </ul>
------------	--

ない：47人

ある（挨拶程度を含む）：48人

- ・ 近所の環境整備に参加したことがある。(10人)
- ・ 近所の新聞屋さんが友達
- ・ コンビニ店員と話すことが多い
- ・ 近所でよく挨拶をして、友達づきあいをしている。
- ・ 近所で知っている人が増えてうれしい。おとなりがミカンをくれた。
- ・ 近所のおばちゃんと仕事の話をする。
- ・ さみしくなれば、近所のたこ焼き屋に出かけ、店の人と話をする。
- ・ 近所の人に梅酒缶をもらったので、旅行の土産を買ってきてあげた。
- ・ 大家さんがやさしい。
- ・ 大きな声であいさつするよう言われている。
- ・ 近所の人やさしい。みんないい人。
- ・ 近所のおむすび屋と“風邪大丈夫ですか？”とか話す。
- ・ 玄関ドアが開かなくなったとき、近所の人気づいて手伝ってくれた。
- ・ 近所の祭りに参加。

・ 近隣住民との関係では、回答のなかった利用者を除いて、いやな想いをしたという利用者はいなかった。本人の言葉はとても頼もしく、地域で暮らす利用者の力は、支援員には想定できない可能性を秘めていることを実感した。

・ 反面、人間関係が、ホームと作業所、サービス事業所等の関係者で完結している利用者が、半数近い。話をすることがない人も多く、それは、地域との交流がないともうけとれ、地域の中で孤立しないような配慮が必要である。特に、意思表示が困難な利用者への余暇支援は大きな課題である。



## 質問⑨

「家族の人とは、会ったり話をしたりしていますか？」

ポイント：家族関係（家族との距離感、行き来、会う頻度）

## ある：52人

- ・帰宅している。
- \* 正月に妹宅へ帰宅。盆・正月に帰宅。家が近くなって、弟家族が迎えに来てくれる。電車一本で帰れるので楽になった。帰宅が楽になった。一人で帰れるようになった。
- ・ホームにきたことがある。（面会）
- \* おばさんが来て部屋の片付けしてくれる。お兄ちゃんがよく来てくれて、「ええとこやなあ」いうてた。兄夫婦がケーキや寿司などをよくもってきてくれる。
- ・年賀状を出している。
- ・電話をしている。
- \* 時々。毎朝母親と電話。携帯で話ししている。
- ・帰宅時には、ホームや仕事の話を聞いてもらっている。
- ・親が無駄遣いするな、家賃の安いところに変われとうるさい。

## ない：20人

- ・兄弟はいるが連絡はとっていない。
- ・年末年始は寮で過ごしたりしている。
- ・家族は好き。

・ニーズ調査などで家族と暮らしたい利用者は多いが、実際に家族と同居される人は、年々減少している。家族の高齢化などにより今後更に実現が難しいことは予測される。こうしたことから、グループホーム・ケアホームは、家族の近くに住む大切な手段のひとつといえる。一方、家族の「施設を出るのはいいが、家の近くはやめてほしい。」という声も聞かれる。

## 質問⑩

「困ったときに、誰に相談しますか？」

ポイント：相談できる場所・人があるか

## 世話人：22人

- ・毎日話ができるからいい。
- ・悩みとか話したいことはなんでも聞いてくれる。
- ・とても優しい。おもしろいから好き。  
毎日あえるのでいい。
- ・相談というか話をしている。
- ・ちゃんと聞いてくれる。



**地域移行センタースタッフ：11人**

- ・センターの職員が、自分よりひとまわり違うから敬語を使われた。敬語は使わなくていいと  
いった。
- ・あんじょうしてくれる。ちゃんと話を聞いてくれる。

**家族（兄弟合）：7人**

- ・センター職員には言い難い。

**同居の利用者：6人**

**ない：4人**

- ・一人で悩みながら解決している。自分で考える。
- ・こまったことがない。
- ・誰にもしない。

**日中活動・職場：3人**

**その他**

- ・コロニー職員。
- ・人が変わるのはしんどい。せっかく仲良くなったのになんでやの。(スタッフの異動に対する不安)

・多くの人が世話人と地域移行センタースタッフとの協力で安心感を得ているが、中には、地域移行センタースタッフの忙しさを気遣う利用者もあり、「センター職員は忙しそうだから、ついついコロニーに電話することはある」という人もいる。実際に、毎日のように電話がかかってくる寮もある。その電話対応も、大切な移行後支援のひとつとなっている。

◆これからの生活について

**質問①**

「心配なことや困っていることはありますか」

ポイント：現状の生活に対する認識（今の生活の満足度）

**ない：16人**

**ある：9人**

- ・病気やけが
- ・老化
- ・世話人にずっといてほしい。
- ・建物が古いのが不安。
- ・他者との関係
- ・仕事



- ・親のこと
- ・コロニー職員に会いたい
- ・今後、自分はどんな大人になっていくのか不安。自分は今のことしか考えてないから。
- ・日中の作業内容が変わるかもしれないので不安。

・質問⑤の内容と重複しており、将来希望する生活に対する内容とすべきであった。

<b>質問⑫</b>	<p>「今はホームで生活をされていますが、何年か先に暮らしたい場所や一緒にくらしたい人はいますか？」</p> <p>ポイント：居住の場（どこで暮らしたいか） 同居者（誰と暮らしたいか）</p>
------------	--

**今のままだいい：29人**

- ・一人暮らしは火事とか心配なことが多い。
- ・みんなでワイワイする方がいい。
- ・ホームの一人部屋がいい。もう施設はいやだから。
- ・父とは暮らしたくない。
- ・一人にはなりたくない。
- ・一人の生活は苦しい。できないことがあったら誰にいいかわからない。
- ・他に方法ないし……仕方ない。
- ・移行センターのスタッフが変ったら（人事異動）自分もついていく。

**誰かと暮らしたい：9人**

- ・結婚したい。
- ・もうホームを出たいと思っている。一緒に暮らしたい人がいる。

**一人で暮らしたい：6人**

- ・一人が気楽。
- ・一人暮らしもしたいし、動物（トイプードル）も飼ってみたい。

**家族と暮らしたい：5人**

- ・本音は家族と住みたいが、みんな忙しそうだからどうしても気を遣ってしまう。
- ・現実には難しい。
- ・家の近くに行きたい。

**特に考えていない：5人**

**その他**

- ・別のホームで暮らしたい。
- ・もう少し自由のある（夜間支援のない）グループホームに行き、好きな友達と一緒に住みたい。出来ればもう少し駅から近い方がいい。

- ・もし、身体が動かなくなって地域生活が難しくなったら、コロニーに帰ってもいい。姉には今まで迷惑を掛けてきたので、世話になりたくない。

・今の生活のままでいいと話す利用者の中には、“違う生活もしてみたいがどうしていいかわからない。” “自分では無理だと思っている。” など、情報があれば希望も変わるのではないかという利用者もいる。グループホーム・ケアホームは、地域で生活するひとつの手段であり、終の棲家ではない。その人らしく暮らせる方法は他にはないか？ という視点を、常に支援員はもち続けることが大切である。

質問⑬

「将来、やってみたいことや夢はありますか」

ポイント：活動（何をして暮らしたいか）・将来の夢

ある：36人

趣味

- ・パソコン。メールしたい。
- ・旅行
- ・ゴルフ
- ・ホームに来て野球ができなくなったから野球がしたい。
- ・劇団に入りたい。応募用紙取り寄せている。
- ・趣味を広げる。編み物。刺繍したい。
- ・東京ディズニーランドに行きたい。
- ・車の免許を取りたい。
- ・カラオケの勉強。
- ・キンキキッズに会いたい。

仕事

- ・大工の仕事してみたい。
- ・工場のある会社で働きたい。就職したい。
- ・日中活動で新しい作業に取り組みたい。
- ・会社に勤めたいが、簡単な仕事がいい。

生活スタイル

- ・一人で住みたい。犬飼いたいから。
- ・結婚したい。
- ・結婚したいけど子どもができないし無理。
- ・子どもがほしい。
- ・彼女がほしい。

- ・一人暮らし。ヘルパーさんをつけて独り暮らしがしたい。
- ・老人ホームに入りたい。
- ・別の市のグループホームに行きたい。
- ・タレント（TRF みたいな）になりたい。結婚はしたいが、多分家族が反対するか
- ・胸を大きくしたい。

ない：10人

- ・夢や希望の実現に向けて、経験をとおして自信をつけたようである。
- ・就労も順調であり、スキルのには充分独り暮らしが可能な利用者に対し、独り暮らしなど本人の希望に沿った支援が必要である。

その他

「話し足りないことや、何か言いたいことはありますか？」

### コロニーを出て思うこと

- ・職員や友達によろしくいってほしい。がんばってるといっておいて。
- ・戻りたくない。
- ・ファミリー帰りたいううとって。
- ・コロニーに戻るのはいややけど、職員には会いたい。コロニーで培った人間関係は大事に思っている。
- ・職員に、手紙くださいと伝えてほしい。以前にコロニーからもらった服は大切に今も持っています。
- ・コロニーの職員に友達と一緒に遊びにきてほしい。がんばってるとこみてほしい。
- ・前はよくコロニーの職員が来てくれたがこなくなった。
- ・コロニーでは、職員に注意されたり怒られたりして職員を殴った
- ・来た頃はいいと思ったが、日がたつにつれコロニーが懐かしく、帰りたと思うようになった
- ・コロニーの職員に会いにいったが、寮がなくなったから違うところに行った。
- ・職員は楽しかった。コロニーでは、就労しているんなところで仕事したり勉強になった。
- ・コロニーの方は職員がいるからいい。(ホームがいやな様子はないが)
- ・コロニーは絶対いやだが、寮がなくなるのはちょっといや。職員がいなくなるのがさみしい。
- ・長いことコロニーにいたから恋しくなることもある。みんなで寝るのが楽しい。
- ・コロニーよかった。別れるとき(友達が)行かんといてと言った。
- ・コロニーに帰りたと思ったこともあるが今は思わない。
- ・割と自由だったし寮も悪くはなかった。
- ・グループホームに出れて、職員にも感謝している。
- ・コロニーで自分が通っていた日中活動(寮業)がなくなったことをとても気にしている。
- ・地域生活を実際に経験したから、自己責任の重さや移行前の職員アドバイスの意味がやっと理解できた。

### コロニー利用者へのメッセージ

- ・人間関係をうまくしていくこと。
- ・お金をためておいたほうがいい。いろいろなものをそろえるために必要。
- ・仕事を一生懸命がんばったほうがいいよ。
- ・グループホームでがんばっているから、みんなも早く来てね。
- ・みんなと仲良くしてけんかをしないでください。
- ・歓迎するよ。お金を大切に。
- ・グループホームは楽しいよ。好きなことができます。
- ・めっちゃいいとこやでーと言ってあげたい。
- ・あせらんとゆっくり考えてグループホームに出た方がいい
- ・コロニーやったらバスまたなあかんけど、買い物すぐいけるしええよ。
- ・自分でしたいことできるから最高や。
- ・きてもかまへんよ。あいてるところあるから。土曜日、日曜日は遊びにいけるし。
- ・もし、グループホームに来たら楽しいし、あたたかくむかえてくれるし、一人くよくよするよりも世話人さんもそばにおるから、自分から言ったらいいよ。
- ・まあまあこんな生活かな。
- ・これから地域移行をする人たちへのメッセージとして、地道に焦らずゆっくり行き先を決めた方がいい。盗み等をする人がいるが、そんなことをしていると地域に出れなくなる。
- ・出たいからといって、あまりあせらない方がいい。入居するまで何が起こるか分からないので、安心は禁物。地域で暮らしたいなら、日ごろからムダ遣いはしないほうが良い。
- ・ホームに行くには、見学してみて！ お金もいるよ。あつたかいごはんたべれるよ。
- ・ホームは朝起きたら掃除くらいせなあかんよ。洗濯もせなあかんよ。
- ・経験せんとわからんし。あかんかったらもどる方法もあるんやし。



### 紙に書かれた A さんの想い

さいしょは、ちょっと不安もあり、世話人さんはどんな人だろう、もしかしてこわい人かな？ と思ったことがありました。今ではそんな不安もなく、普通に生活できるようになりました。たとえば、風邪をひいて寝込んだ時は、世話人さんが部屋に来て熱を計ってくれる。病人食も作ってくれたりもしてくれます。

(中略)

もうしせつには、二度と入所しません。

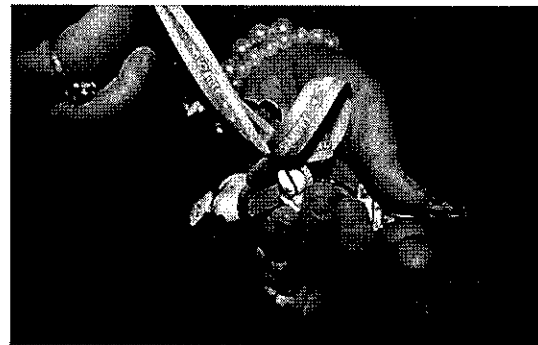
やっぱりこの生活になれたから。

ホームの食事 美味しい

(原文のまま)

#### (4) 聴き取り調査を終えて

「ホームの生活で困っていることはありませんか？」という話しかけに、ほとんどの利用者が、「ないよ！」と答えた。また、「ホームの生活はどうですか？」と尋ねると、「ごはんおいしいわ！」「ここええわ！ カギもってんねん」など、喜んでいたり、作りたてのおいしい食事が食べられること、自分だけの空間がもてることなど、ごく当たり前の生活であった。



今回の調査では、職員に対しての苦情も覚悟していたが、他の利用者に関することが多く、その点からも、“コロニーから来た職員”である調査員が本人の本音を聴くのは難しいのではないかと思われた。

調査方法としては、利用者の状況により書面でのアンケートと平行して行う、聴き取るよりも書いてもらうなど、臨機応変の対応ができるよう事前の準備が必要であった。また、利用者からの積極的な話しかけがない場合、選択方式の設問になりがちで、誘導的になった面が否めない。中には、ホームでの様子を聴くことができない利用者や、同席されたスタッフがほとんど答えるということもあった。

以上のことから、地域生活移行検証のためには、中立的な立場で聴き取りすることができる体制が必要であり、今後は、関係機関等の協力も得ながらの調査実施が望まれる。

この聴き取りの中で、その他の欄にあるようにコロニーの利用者にたくさんのメッセージがあった。『経験せんとわからんし……』ということは、家族も一緒のようで、移行前は、家が近くになりすぎるので負担が増えるのではないかと心配されていた家族が、今では、物を持ってよくたずねて来られるようになり、いい距離と関係が保てているという他法人の地域移行センターの話もあった。

“経験してみる”ためには、「チャレンジしてみたいが、だめだったときはどうしたらいいのか？」という不安の声に対して、明確な答えが必要である。そのため、再入所支援も視野に入れた施設のバックアップ機能の充実が求められる。

この度の調査では、『コロニーにもどりたい』と言われた利用者はいなかった。けれども、地域で暮らす利用者にとっては、長年住み慣れたコロニーは心の故郷でありその存在がある安心感は大変大きいことと感じた。

地域で安心して暮らすための定着支援も施設職員の役割であり、地域のネットワークの一員として機能すること、また、“金剛コロニー”が心の故郷であり続けられる体制づくりも、大切な支援のひとつであると感じた。

### 3 おわりに

#### 地域で暮らしはじめるために

利用者のニーズは、日々変化している。利用者の想いに気づきそれを形にしていくためには、具体的でわかりやすい情報提供や実際の経験ができる場の提供と職員のアドボケート機能は重要である。地域生活につながる利用者の想いの芽を、摘むのも育てるのも施設職員にかかっている。その“責任の重さ”を自覚することからはじめることが大切である。

また、ていねいに、あたりまえに、ケアマネジメントし、個別の支援計画に基づいた具体的な支援の展開が欠かせない。その計画は、利用者と本人を取り巻く関係者全員の取り組みでなくてはならない。

“地域生活への移行”は、施設からだけのアプローチでは、「出て行け」と受け取られがちになるが、地域からのアプローチは、本人、家族ともに“安心と夢と希望”を与える。

その地域と施設との協働で地域生活の仕組みをつくりあげていくことが大切である。施設も地域にふれることで元気をもらい、地域は、丁寧な施設の関わりで安心を得る。そのキャッチボールが移行支援には不可欠である。

今、地域生活への移行支援で大切なことは、利用者も家族も支援員も、『地域生活は素敵』だという確信をもつことである。

#### 地域で暮らし続けるために

地域の生活は、楽しいことばかりではなく、不安なことや心配なこともたくさんある。利用者の中には、少しの間ホームを離れて一人になりたい人もいるかもしれない。ホームが寂しくて人に囲まれて過ごしたいときもあるかもしれない。そんなとき、ちょっと一息入れることのできる空間があり話を聴いてくれる人がいれば、そのしんどさや不安は乗り越えられるかもしれない。

また、地域で生活を支えているスタッフも、日々悩みながらの支援の中、バーンアウトしそうになるときがある。そんな気持ちを支えてくれるのは、地域で暮らす利用者の笑顔であるが、想いだけでは限界がある。利用者が地域で暮らし続けるために、複数で、チームで、組織で、関係機関で、地域で支えあい、バーンアウトしない、させない体制が不可欠である。利用者が暮らし続けるためのセーフティネット機能の充実が、地域の中に望まれる。

同時に、地域に送り出した施設の役割として、何か困ったことや不安なことが起きたときなど、利用者や関係事業所からのヘルプコールを確実にキャッチし対応できる体制の構築など、バックアップ機能の充実を図らなければならない。

これまで、地域に移行した利用者の中で、さまざまな事情により5人が施設を再利用している。本人、家族にとって再入所できる安心を確保すべきことはいままでもないが、地域生活は無理だから再入所……で終わるのではなく、本人の気持ちを大切にしながら、再チャレンジするための支援体制が必要である。

障がいがある人が地域で暮らすことは、本人の生きる力を高めるだけでなく、支援に関わるスタッフや地域の人々の力も高めていくことになる。それは、地域の福祉力を高めることにつながり、誰にとっても暮らしやすいまちづくりが進められることにもつながる。

地域生活への移行は、これからが本番であり、利用者の想いを形にする支援を続けたい。